

事業評価報告書

1 地域課題の名称

廃棄物からのアルミ資源回収

2 市町村名及び評価部局課名

高岡市産業振興部産業企画課

3 課題の概要

高岡市は、サーキュラーエコノミーの推進によるカーボン・ニュートラルの実現に取り組んでおり、富山大学は、アルミを中心とした資源循環の先進モデルの創生を目指している。これらの取り組みの実現に向け、高岡市と富山大学は相互に連携し、地域の課題解決や地域経済の発展に向けてアルミの資源循環システムの形成に取り組んでおり、これに資する調査として、不燃物として廃棄されたものに含まれるアルミ資源量の調査及び効率的な資源回収方法の確立に向けた検討を行う。

4 解決策の提言に対する評価(観点及び分析等について、具体的に記載願います。)

これまで不燃物としてまとめて廃棄されていたもののうち、アルミ資源がどれだけの量が含まれている可能性があるか品目ごとに定量的に示されており、今後のアルミの資源循環を構築する上での検討材料として大いに参考となる情報を得ることができた。また、不燃物として廃棄されたもののうち、アルミが含まれているものは鍋・フライパンが大部分を占めていることが明らかとなり、アルミの資源循環を実現する上で重要な要素であると考えられる。

一方、今回調査対象となった不燃物の重量は、調査対象地区の人口比から想定される不燃物量からみてかなり少ない、といった課題がある。これには、特定の地域の不燃物のみとしたことによる世帯構成、あるいは回収した時期による季節要因などといったバイアスが生じていることが想定される。そのため、より精度を高めるためにはより標本数の分散や増加が必須と考えられ、大規模な調査を要する。ただし、今回の調査結果によると、鍋・フライパン以外のアルミ含有量が非常に限定的であり、かつアルミのみを回収することが困難なものが多いことを考えると、費用対効果は非常に薄いと思われる。

課題は残るものの、不燃物に含まれるアルミの傾向や、仮に回収に取り組む際にはどこに注力すべきか等、アルミの資源循環システム構築の実現にむけて富山大学とより連携を深めるための検討材料の一つとなったことは大いに評価できる。